

◇編集後記◇

中高年の職場のメンタルヘルスや自殺対策に関心を持っているため、最近の労働契約法制をめぐる議論、とくにホワイトカラー・エグゼンプション導入の是非をめぐる動きには注目していた。つい数日前の新聞に、「与党残業代ゼロ法案提出見送り確認」という見出しが出た。一部事務職の労働時間規制を除外し残業代支払い対象から外す「日本版ホワイトカラー・エグゼンプション」制度について、与党は関連法案を1月25日召集の通常国会には提出しない方針を確認した、というのである。過重労働対策に現場が奔走している一方で、一部管理職に労働時間規制を撤廃するという法案の推進を図る動きがあるという現実には、少々違和感を覚えるというのが一般人の感覚であろう。

本号には、米国のメンタルヘルスに関する法令調査の報告が掲載されている。米国の労働時間法制が日本とは異なる発想で作られていることがよく分かる。日本の労働時間法制はドイツやフランスと同様に労働時間を直接規制する方式をとっており、米国とは異なる。何でもア

メリカの真似で良いのかという当たり前の議論をもう一度良く吟味する必要がある。諸外国の現状を知った上で、制度の改変の是非を論じなければならない。そのような意味で、上記報告は時宜を得たものであった。このような調査報告をタイムリーに掲載できたことは編集者としては、うれしいことであった。

昨年この時期にも編集後記を担当し、豪雪で大変だという話を書かせていただいた。一年経ってみると、今年は暖冬で、東北では雪不足でスキー場が悲鳴を上げているというニュースが飛び交っている。穏やかな冬は私としては歓迎なのだが、地球全体が何かおかしくなっているのではないかと心配になる。今年一年が穏やかな年であることを年頭にあたり祈願したい。今年は医学会総会が大阪で開催される年であり、日本産業衛生学会も大阪で盛大に開催される。多くの会員が参集し、実り多い議論を交わされることを願っている。

(本橋 豊)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林 亨（慶應大）、堤 明純（産業医大）、
本橋 豊（秋田大）、森 満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（安衛研）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（安衛研）、塩飽邦憲（島根大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埜田和史（滋賀医大）、谷川 武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（東京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利一（産業医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（産業医大）、若林一郎（兵庫医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番